



校長から宗高・宗中のみなさんへⅡ ⑱

令和2年10月23日(金)

「18歳＝有権者」

昨日、校長室掃除に来てくれている高校3年生の女子の生徒さんが、掃除が終わって校長室から出る時に、笑顔で「明日は『ふかしんメッセージ』の日ですね！楽しみ～！』と言って帰って行きました。『ふかしんメッセージ』は月2（1）回にしてくれませんか！？』とか『ふかしんメッセージ』はやめてほしいです。」といった声をちらほら耳にする中、この3年生の女子が笑顔で言ってくれたこの「言葉」で、私は嬉しい気持ちになって、元気をもらいました。

きっとこの生徒さんは、何気なくごく自然にこの「言葉」が出たのだと思います。人を嬉しい気持ちにさせたり、元気にするこんな「言葉」を笑顔で発することができるこの生徒さんは本当に素敵な人だと思いました。

このことは、あらためて「言葉」の持つ力の大きさを感じた出来事でした。使い方によっては「言葉」は、簡単に人を傷つける「刃^{やいば}」になってしまいます。しかし、また「言葉」の力で、人は元気をもらい、勇気をもらうことができます。宗高・宗中は、みなさんたちがお互いに前向きの気持ちになったり、元気になったり、勇気が湧いてくるような、そんな「言葉」が飛び交う素敵な学園になりたいですね。そして、宗高・宗中のみなさんなら必ずそんな学園にしてくれると思っています。

授業中にも、選挙カーのスピーカーから選挙運動の声が聞こえてきていますね。本校の正門横には選挙ポスターの掲示板も設置されています。今度の日曜日25日は、宗像市議会議員選挙の投票日です。高校3年生で18歳になっているみなさんは、すでに選挙権を有する「有権者」になっています。そして、宗像市に住んでいる18歳の高校3年生は、今回の宗像市議会議員選挙で初めての投票行動をすることになります。

みなさんが、中学の「公民」や高校での「現代社会」「政治・経済」で学んだように、かつてイギリスのジェームス＝ブライスは、「身近な問題をあつかう地方自治に参加することによって、民主主義を学ぶことができ、政治に参加する姿勢も育つ。」という意味から「地方自治は民主主義の学校」

であると述べました。宗像市在住の18歳の高校3年生は、民主主義の基本となる一番身近な「地方自治」の選挙から「有権者」としての歩みを始めることになります。

私たちは誰一人として政治と無関係に生きていくことはできません。私たちが納める税金の用途を決めるのも政治ですし、法律や条例を定めることや、様々な制度やしくみを作るのも政治です。

「政治のことは難しいから」「政治のことなんかわからないし・・・」と言って選挙を棄権したり、「私には政治とか関係ないし・・・」と言って無関心になることは、気がつく私たち自身が不利益を受けたり、困ったことになることにも繋がりがねません。また、政治に携わる人たちにとっては、人々が政治に無関心になってくれれば、批判等もされることなく自分たちがしたいようにすることができますから、政治的無関心の人々が多くなってくれたほうがやりやすいのかもしれませんが、そんなことになってしまえば、ある時は血を流してまで人類が「獲得」してきた「民主主義」は死んでしまいますよね。先人たちが「獲得」してくれたこの民主主義をしっかりと守っていくためには、私たちひとり一人が、わかってはなくても、常に世の中の動きと政治に関心を持ち、政治について語り合うことが不可欠です。そして、「有権者」は選挙において、自分の考えに最も近い公約を掲げている候補者に「投票」することによって「主権者」としての意思表示をして、「政治に参加」しなければなりません。

また、みなさんもよく知っているように、イギリスのジョン＝アクトンは、「権力は腐敗する。絶対的権力は絶対に腐敗する。」と言っています。政治に携わる人はなにがしかの「権力」を持っているわけですから、この「権力」が正しく行使されているかどうかを不断にチェックし、よりよい「政治」にしていくことも「主権者」としての大切な責任と使命であり、これも「民主主義」を守ることに他なりません。

今回、「有権者」となって初めて選挙に参加する、宗像市在住の18歳の高校3年生のみなさんは、自宅に配布されている「選挙公報」でそれぞれの候補者の公約をしっかりと読んで、必ず明後日曜日曜日の選挙に行き、自分が最も賛同する候補者に投票してほしいと思います。それが「有権者」である宗像市在住の18歳の高校3年生のみなさんの「政治参加」の第一歩となるのです。

校長 深瀬 信也